和歌山県人権啓発市町村助成事業

人権映画上映会

第32回

隅田地区公民館文化祭

1995年春、兵庫県西宮市。
脳性麻痺の娘望美（5歳）を抱え介護に勤しむ美幸（38歳）は、望美の世話をできるのは自分だけと、介護に、家事に、子育てに、家の中のことを全て背負っていた。次第に追い詰められていった美幸は、長年会っていない大分に住む母喜子（65歳）に支援を頼む。「そげな子は、自分で育てられるわきゃないき!こっちはこっちの生活があるんやけん!」
意を決し助けを求めた美幸に対し、母親の言葉は残酷だった。
見えないストレスを抱えた美幸は、見た目は元気ながらも不眠と摂食障害に悩む“仮面うつ”を患ってしまう。そんな疲れきった毎日で、美幸は“望美がいなかったら幸せだった…”という自分の無思慮な考えにハッとするが次の瞬間、同じ団地に住み、いつも母親のようにしてくれている大守（83歳）に言われた言葉が美幸の脳裏に浮かんだ。「全ては自分やからね」望美のせいじゃない。全ては自分次第だ。そう思った美幸はもう一度、自分らしい生き方を取り戻すべく、夢だった児童文学者への道を目指し、小説を書きはじめる。しかし、美幸が前向きになり、暗闇から抜け出そうと決めた途端、美幸の前に新たな試練が襲ってくる。母の喜子が認知症とうつ病を併発してしまったのだ…。

生きているようで生きる事をやめた人が世の中にはどのくらい溢れているのだろう。
そんな止まってしまった時計のような心がまた動き出す時、、、涙が止まらなかった。

女優　真矢ミキ

様々な試練が降り注ぐ母親役を演じる鈴木紗理奈さんの演技に引き込まれました。
〝見るものの方向を変えることや考え方ひとつで、全く違う景色が見えてくることもある〟
その大切さを改めて考えさせられる映画でした。

フィギュアスケーター　高橋大輔

企画・製作：新田博邦
撮影監督：小美野昌史
脚本：仁瀬由深
音楽：田中和音
照明：渋谷秉二
録音：松野泉
美術：宇山隆之
助監督：平波亘
制作担当：山口理沙
音響・効果・整音：丹雄二
制作統括：早坂直紀
ゼネラル・プロデューサー：大平恵治

出演
鈴木 紗理奈
八日市屋天満（子役）・福富慶士郎（子役）／土屋貴子・申芳夫・酒田かおる
雪村いづみ（特別出演）／石川裕見子・湖中香名子・門村伊奈子／亀井賢二／赤座美代子

撮影協力：
ひょうごロケ支援Net
西宮市都市ブランド発信課
神戸フィルムオフィス
ロケ協力：西宮市社会福祉協議会「青葉園」
西宮コミュニティー放送株式会社

エンディング・テーマ　「耳をすましてごらん」
作詞：山田太一　作曲：湯浅譲二
歌：小林啓子

制作・配給：ミューズ・プランニング
配給協力：エレファントハウス
美容監修：フェミニン&アネックス
制作協力：CO2運営事務局
アッチェルランドコーポレーション
特別協力：鳳書院
提供：グローバルジャパン

©2017「キセキの葉書」製作委員会

平成31年2月9日（土）

開場　13:00　／　上映　13:30

場所：橋本市東部コミュニティセンター

●参加費　　無料（ただし入場整理券が必要です）
●整理券配布場所　各地区公民館および中央公民館／１月９日（水）より配布開始
●後　援　　橋本市人権啓発推進委員会隅田地区会
●問合せ　　隅田地区公民館　TEL３４－２３１２